

# サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成19年度新規・継続会員(敬称略・順不同、2008年4月1日～2008年5月31日)

(正会員)(特活)フレッシュパル会、(特活)あぐりねっと21 (準会員)後藤美香、後宮眞悠子

■平成20年度新規・継続会員(敬称略・順不同、2008年4月1日～2008年5月31日)

(正会員)佐野章二、渡辺雅昭、(特活)パートナーシップ・サポートセンター

■企業・団体協力(五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

セント福祉の会(新品のノートパソコンを寄贈いただきました)

## お知らせ

### せんだい・みやぎ NPOセンター 第10回通常総会

日時:平成20年9月6日(土)時間未定

場所:仙台市市民活動サポートセンター

通常総会の時間や記念講演会等のご案内は、  
8月中旬に郵送にてご連絡いたします。

### 加藤哲夫の NPO経営相談

日時:平成20年 7月 9日(水)13:00～17:00

平成20年 8月 19日(火)13:00～17:00

平成20年 9月 26日(金)13:00～17:00

場所:せんだい・みやぎNPOセンター

相談料:2,500円(1時間単位、会員は500円引き)

※ 予約制です。まずはお電話を!

## 連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F  
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209  
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

### ▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ!

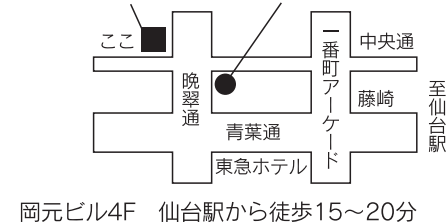
郵便振替:02260-3-16325

仙台銀行 中央通支店 普通 4094031

加入者:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

## 発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン  
編集長:内川奈津子  
編集班:紅邑晶子、三井克  
発行日:2008年7月1日  
デザイン:氏家朗



## | 編 | 集 | 後 | 記 |

先日発生した、岩手・宮城内陸地震。幸い仙台市内は大きな混乱も無く、当センターも一部のスタッフの書類の山が崩れた程度の被害ですみました。改めて自然の怖さ、日頃の備えの重要性に気づかされました。(ウチカワ)

6月10日、みんみんポータルが開設されたとたん、すさまじい勢いでいくつもの宮城のNPOがブログを書き出しました。当センターの青木さんもすごいです。地震に関する情報も次々アップされました。そんな青木さんは、6月30日をもって退職します。98年4月より勤務してくれたので、丸10年間になりました。いろいろお世話になりました。さて、青木さんに代わって誰がブログを更新するのか?密かに携帯をカメラ付に替えたのですが、うーむ。(紅邑)

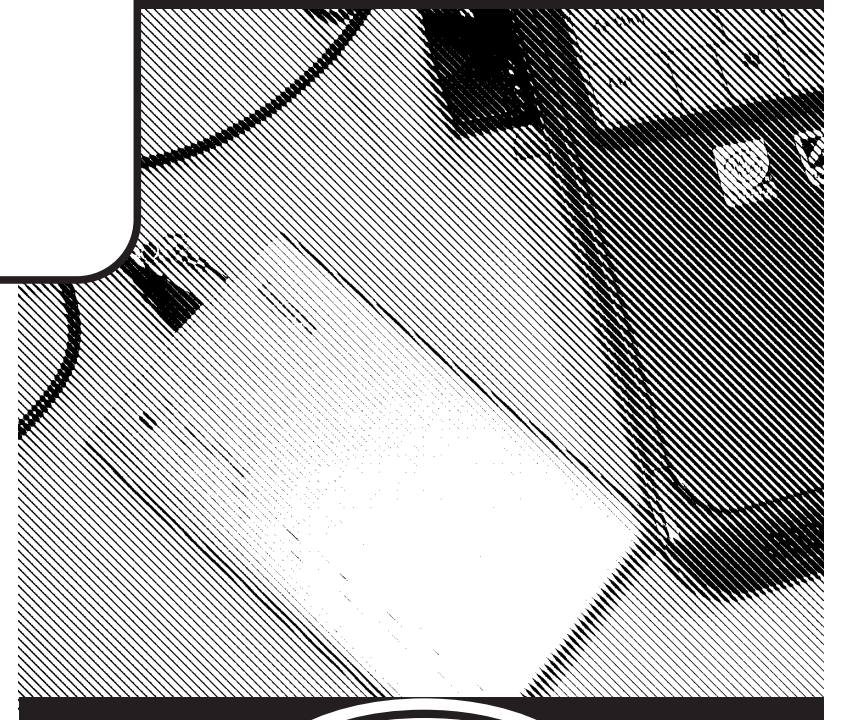
最近のガソリン代の大幅な値上げ。それならばと車を放棄して結構遠くまで歩いています。エコってお財布だけじゃなく健康にも良いのですね!(三井)

# みみん



【題字】谷川俊太郎さん

## MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談お相手、定行さんのお気に入り小物を見せてくださいとお願いすると、「かわいい物では無いのですが」と取り出したのは、小さな銀色のハコ。これは外部HDで、みやぎタンスさんの10年分の写真や活動資料がぎゅつと入っているそうです。出先でも必要な物がすぐに印刷でき、まさにみやぎタンスさんの小さなライブラリー。アクティブに活動している、定行さんならではの小物です。

### ■目次

- P2～3… 理事対談
- P4～5… せんだい・みやぎNPOセンター 2008年度事業紹介
- P5…… 10周年記念誌が完成しました
- P6…… 寄稿 ゆるゆると原点に戻るひととき、  
「5丁目カフェ うさぎ」 古賀桃子さん  
理事リレーコラム「私と市民活動15年」 黒澤 学
- P7…… せんだい・みやぎNPOセンター スタッフ体制紹介
- P8…… 新規会員・継続会員  
お知らせ、編集後記、連絡先等



# 理事対談

## 「いろんなNPOがつながれば、もっと面白いことができる」

第3回の理事対談は、特定非営利活動法人みやぎダンス理事長の定行俊彰さんと紅邑晶子常務理事の対談です。今回は、定行さんが取り組まれている、障がいの有無、年齢、男女、国籍、文化などの違いをすべて包括するインクルーシブアート(注1)の可能性をお話していただきました。

### ■ヴォルフガング・シュタンゲとの出会い

紅邑/どのようなきっかけで「みやぎダンス」に至ったか、お聞かせ下さい。

定行/きっかけは、92年にぼくの師匠であるヴォルフガング・シュタンゲ(注2)を仙台に招くことでした。それまでは宮城教育大学で演劇と教育を学んでいました。そのころ、東京にいる友人が彼を招いてワークショップをやっていた。その流れで、仙台でもやらないかと。「どんな人？」って聞いたら、「健常者と障がい者が一緒になって踊るダンスを始めた人だ」というから、「じゃあ、やりましょう」と。ワークショップをやるに当たって、彼が出した条件は、障がい者20人、健常者20人を集めること。障がい者のつてはまったくなかったけど、とにかく集めて、ワークショップをやって、そこで単純に「きれいだな」と思ったんですね。しかも瞬間に生まれる動きに飾り気がなく、さらにうまくみせようという気持ちもない。動きたいから動かし、つまらなかつたらやらない。そのなかで生まれる動きがとても美しかった。それがきっかけで毎年彼を招くことになりました。

紅邑/みやぎダンスとしてのワークショップはどちらで行いましたか？

定行/メンバーの保護者に尚綱学院の方がいて、月1回、そちらをお借りすることができました。ヴォルフガングは仙台に来るた

びに、「イギリスではこれがステージになる。なぜ日本にはないのだ」と言っていました。イギリスでも、彼が始めるまではなかったし、いろんな公演に彼が行っても、障がい者は見る側にしかならない。舞台を見ている彼らの目の奥に深い悲しみを見た。それで始めてみると、きちんと作品になるし、見る人にも感動を与えられる。さらに、賛同してくれる人も増えていく。そんな話を聞いて、舞台をやることになりました。

紅邑/目指す方向が見えてきた？

定行/そうですね。毎年、彼を呼んで、ほくも月1回のワークショップをして、2003年の作品を旗揚げするまで5年かかった。最初の2年は、苦しかった。組み立てたプログラムがぜんぜん通用しない。でもだんだん見えてきて、その場で起きてきたことをつかまえて、発展するということを学んでいった。それから「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」や「とっておきの音楽祭」に出ようと作品を作り始めました。

紅邑/いろんな人を巻き込みながら活動する中で、目標に向かってぶれずに進むことはできましたか？

定行/ワークショップをやればやるほど「これは舞台上げられる」という確信みたいなものがありました。ただ、舞台上げられる人って、限られている。舞台は究極の形ではあるけれど、それがすべてということではない。それよりも、ダンスには、自分を表現する楽しさや、からだで話すことで人とつながる楽しさ、自分の違う側面に気がつく力があって、そのベースはワークショップだと思っていますね。

紅邑/現在、取り組まれていることを教えてください。

定行/ワークショップの充実ですね。それと、イギリスの団体と今年から3か年交流をすることになり、今、2人のスタッフがノウハウを学んでいます。2009年には、こちらがロンドン公演をし、2010年には向こうが来日して、公演とワークショップを仙台と東京(予定)で行います。

### ■宮城のNPOとのコラボレーションの可能性

紅邑/アート系NPOには、いろんな入り口があると思いますが、市民とのつながり方、宮城のNPOとのコラボレーションというところですでに取り組んでいることはありますか？

定行/昨年(特活)オハイエ・プロダクツと共同主催で「インクルーシブアートの日(注3)」というのをしています。

紅邑/子育てや介護のNPOとつながると、いま以上に活動の幅が広がるのでは？

定行/そうですね。アートは、やりたいという気持ちさえあれば、受け入れる土壌を持っているし、自分の可能性にも気がつくし、楽になることもできる。ただアートという言葉を使うと、いわゆるアーティストという固定観念が邪魔して、本質が伝わりにくい。アートや演劇・ダンスが持つ力についてどう伝えるか、これには

ゲスト

定行 俊彰  
特定非営利活動法人みやぎダンス 理事長



説明が必要だと思っていますね。

紅邑/アートに触れるきっかけにめぐりあって、伸びていくことがあるかもしれないから、気づいた人には、チャンスをいっぱい作っていく役割があるかもしれませんね。

定行/そうですね。いわゆるカルチャーセンターにはアート系講座がいっぱいあって、たくさん人が受講しているけれど、ハンディキャップを持つ人を受け入れない。そこに意識のバリアを感じます。日本の文化の問題だと思いますが、無意識のうちに排除する。でも、そうじゃないと伝えたい。

紅邑/全国規模で見るとき、アート系NPOのかかわりで、成功事例はありますか？

定行/著名なダンサーや、コンテンポラリーダンスに興味を持っている人のなかには、大阪の釜ヶ崎に入り込んでいくダンサーが出てきている。イギリスに半年間、研修に行っているうちのスタッフも、帰国後、仙台のホームレス支援をしているNPOと協力をしながら、ダンスをしたいと話しています。

紅邑/ビッグイシューもイギリス発ですね。ダンサーとホームレスの人たちの新しいコラボレーションに注目してもらって、自分でも気がつかなかった可能性を感じてもらうことはいいことですね。

定行/今までは、健常者と障がい者というカテゴリーでしたが、不登校もそうだし、マイノリティと言われている人も言われていない人も、一緒に踊れると、もっと違う可能性を提供できると思う。今年の2月公演では、劇場の規則を守って、やり切った感じ。そこで見てきたものは、劇場の決まりごとにとらわれずに障がい者と健常者が一緒に踊るという特性を發揮できる作品を作ることにはできないだろうかと考えました。その基礎とも言えるワークショップをじっくりとやっていきたいということになりました。

紅邑/外国に行くと、街中に楽器を演奏したり、パントマイムをしたりするパフォーマンスをするエリアがある。仙台でも公共空間や、企業がそういう場を提供すると状況は違ってくるかも。そういう場所で、好きなときに好きなようにいろんな人が表現し、その楽しみを味わえればいいですね。

定行/そうですね。どうしてもダンスをやりたいという人がいるなら、突っ走ればいい。ほくは演劇から始めたから、からだを持っているコミュニケーションの力や、自分のからだに気づくことによって可能性を見つけることは、言葉にならない感動があることを知っています。そういうことを地道にやってきた経験をダンスに生かしていきたい。

### ■NPO同士をつなぐ仲人役が必要

定行/ほかのNPOと手を組みたいと思っていますが、そういう時、「こういうNPOのこんな面白い人を知っているから、会ってみる？」というようなことがあるといい。同じ志を持っていると

ころとは、すつといけるけれども、そうではないところどうつながっていくかが課題だと思います。

紅邑/仙台市市民活動サポートセンターの3階にある「仙台市シニア活動支援センター」では、NPOと相談者のマッチングを行っていて、成功事例が増えています。当センターがそれを積極的に発信していけば、お役に立てるのではないかと考えています。

定行/いろんなNPOがつながれば、もっと面白いことができるし、1団体のNPOを支援するよりも複数のNPOに対してなら、企業も資金を援助しやすいと思います。

紅邑/そうですね。当センターでは、企業にいろんな提案をしたいし、今までにない組み合わせを生み出し、そこにうちの会社は応援しているというほうが、アピールできる。これは企業の関心も高く、こちらから積極的に提案し、マッチングしたいですね。これはNPOと様々な形で関わっている当センターだからこそできることだし、これからいろいろ仕掛けられる可能性はあると思っています。今日はどうもありがとうございました。(記録・編集/谷口恵子)

(注1)インクルーシブアート:インクルーシブとは、「すべてを含む」「包括的」という意味。障がいの有無、年齢、男女、国籍、文化などの違いを超えて、それらをすべて含むという概念をもったアートをいう。その基本理念は、「アートは誰に対しても平等である」。

(注2)ヴォルフガング・シュタンゲ:振付家。1947年、ベルリン生まれ。1980年、障がいを持つ人と待たない人により構成される「アミキ・ダンス・シアター・カンパニー(イギリス)」を設立。1991年、優れたダンス公演に与えられるDIGITAL DANCE AWARDを受賞。現在、世界各地でワークショップやダンス公演の振り付けを行っている。

(注3)インクルーシブアートの日:音楽、ダンスの体験ワークショップや、シンポジウムを開催、興味関心に応じ、参加者が選択できる。

紅邑 晶子  
せんだいみやぎNPOセンター  
常務理事・事務局長





7月に入り、当センターも新しい事業年度がスタートしました。今年から始まる新規事業と、昨年度からの継続事項の中から、ピックアップしてみなさまにご紹介いたします！

## ■地域貢献ファンドみんみん(みんみんファンド)

本年度の「地域貢献ファンドみんみん(みんみんファンド)」は、7月1日から「ろうきん地域貢献ファンド」、8月下旬から「みんみん(本体)ファンド」と「ふくふくファンド」、さらに2009年2月上旬からは「みやぎNPO夢ファンド」の公募がスタートします。なかでも注目は、直近の「ろうきん地域貢献ファンド」において、昨年度実施した企画事業プログラムに加え、団体内部の組織開発を支援するプログラムをスタートしたことです(助成額10~30万円・3~5団体程度)。団体の組織や活動が持続的に成長できるよう、組織課題を解決し、組織基盤強化の取り組みを支援していきます。さらに、助成に当たっては、昨年度から開始し、一定の成果を上げた「コンサルティング」を導入(2団体限定・希望制)。コンサルティングに当たっては、当センターの加藤代表理事と紅邑常務理事が担当し、効果的な助成事業を推進していきます。



## ■CSR推進相談所+せんだいCARES+CSRセミナー

今年5月に開設したばかりの「CSR推進相談所」は、最近、CSR(企業の社会的責任)が注目されるようになってきたことを意識して、以前より当センターが取り組んできた企業との関係を活かして誕生しました。その機能としては、CSRレポート作成支援など企業のCSRへの取り組みに関するご相談、NPOと企業のマッチングのご相談、CSRに関する情報発信と情報収集、CSRに関する勉強会・セミナーの開催、CSRに関する交流の場の提供などがあります。開設後、様々な企業が当センターを訪れるようになりました。なお、7月7日(月)には企業向けにCSRに関する学びと交流の場として「CCFサロン2008」を開催する予定です。昨年初めて開催した「地域のCSRセミナー」を今年は8月28日(木)に開催します。CSRプラス対象にエントリーする企業選考を準備中。今年は仙台から1社しかノミネートできないので、その分地域密着の中味のあるセミナーを企画したいと思っています。また、今年で6年目となるまちづくりキャンペーン「せんだいCARES」は、新しい実行委員も加わり、すでに動き始めています。



## ■講師派遣メニュー

当センターのドル箱というか、鶏飼の鶏というか、一番の稼ぎ頭は何とんでも「加藤哲夫」その人です。NPO関係者、行政職員、地域コミュニティといったところでおよそ130回の講演をしています。けれど、当センターのスタッフも様々なところで講師として大活躍しています。仙台サポセンでは「NPOいろは塾」の塾長として活躍するスタッフが、またNPO向けの各種マネジメント講座の講師も多種多様です。広報制作(効果的なチラシの作り方、効果的な広報の仕方)、効果的なIT活用術、会議の運営方法、ファシリテーションの仕方、理事会マネジメント、ボランティアマネジメント、事業企画の立て方など。今年は、積極的に加藤哲夫以外の講師派遣を実施します。ご依頼は計画的に！せんだい・みやぎNPOセンターまで。

## ■みやぎの公益活動ポータルサイトみんみん NEW!

昨年からの開設の準備を進めてきたポータルサイトがいよいよオープンいたしました。このサイトは、従来の当センターのHP(minmin online)と並ぶ、もうひとつの情報発信サイト(愛称「みんみんポータル」)です。特徴は、元々のHPが、NPO向けの情報提供と当センターの事業報告などの蓄積サイトだったのに対して、みんみんポータルは、地域のNPOの情報発信を中心に、市民が困ったときにNPOを探し、企業が社会貢献の相手を探すなどのやりとりが見えるサイトにしたいと思っています。中心のコンテンツは、①みやぎのNPO情報ライブラリーによる団体情報の提供、②みやぎのNPO発ブログ更新情報、③サポート資源提供システム・宮城のCSR最新情報、④全国CSRホットニュースの4つです。各団体が書くブログによる、リアルな活動情報にご注目下さい。○みやぎの公益活動ポータルサイトみんみん <http://minmin.canpan.info/>

## ■政策提案・アドボカシー活動

NPO法人が誕生して今年の12月で10年になります。この法律ができたときの目標の1つは、草の根の市民活動団体が簡易に法人格が取れる仕組みを作る、2つ目は、法人化したNPOが積極的に情報公開を行なう仕組みを作ることでした。そして、3つ目がNPOへの税制優遇のしくみを整えるということでしたが、認定NPO法人制度が誕生したものの、10年経ってもNPOの現場は資金不足、さらには人材不足という状況です。今年はNPO法の見直しや公益法人制度について積極的に地域のNPOに情報提供を行ない改正に向けて活動を展開したいと思います。なお、以前実施していた県議会議員との意見交換会も先の6月議会より再会いたしました。

## ■仙台市市民活動サポートセンター

1999年6月にオープンした仙台市市民活動サポートセンターは、2009年に10周年を迎えます。2008年度は10周年を見据えた取り組みとして、次の項目を強化し新しいサービスの提供に取り組んでいきます。

- 企業の社会貢献活動(CSR)の情報発信をサポート  
⇒企業とNPOの協働事例を紹介するとともに、CSRのあり方について考えるサロンを開催します。(2009年2月開催予定)
- 地縁(町内会等)とテーマコミュニティ(市民活動等)の連携促進  
⇒町内会とNPOの連携事例の情報収集を行い、発信します。
- 市民活動シアターの活用促進  
⇒公募で採用された8企画を開催し、市民活動シアターの新たな魅力や可能性を探ります。(2008年8月~2009年2月開催予定)

## ■仙台市シニア活動支援センター

仙台市シニア活動支援センターでは、今年度は以下の4つの事業を実施していきます。

- 3つのセカンドライフ講座
  - ①8月 地域に密着した活動への参加を形にする「地域活動講座」
  - ②10月 市民活動・NPOへの参加、立ち上げを支援する「市民活動講座」
  - ③11月~12月 起業、開業を目指す方のための「起業講座」
- 段階に応じた相談
  - ①一般相談 予約は不要。センタースタッフが幅広く相談を受け付けます。
  - ②シニア総合相談(毎月第4木曜日) 定年退職後の、経済面の不安、健康、生きがいづくりなどの相談を経験豊富な相談員が受け付けます。
  - ③シニア専門相談(毎月第2土曜日) さまざまなテーマを設け実施。専門知識を持つ相談員が相談に応じます。
- 活動体験につなげる「マッチング交流会」
- 企業との連携を強化するため「企業担当者向け説明会」

## ■多賀城市市民活動サポートセンター NEW!

6月1日、港を見下ろす丘の上に、多賀城市市民活動サポートセンターがオープンしました。この施設は、町内会・自治会活動を含む市民活動の拠点として整備されたもので、合計9名のスタッフが運営業務を担当します。

施設は地上3階建て、70台以上を収容できる駐車場を備えています。貸室は全部で7つ。最も大きな大会議室はイス席だけなら120名程度が利用でき、仙台サポセンと同様に印刷作業室(コピー機・印刷機各1台)やロッカー(20個)、レターケース(36個)、そして共同事務室(8ブース)を整備。フリースペースも充実しています。もちろん、多賀城市周辺を中心とした市民活動情報の収集と発信も行いますので、皆さんからの団体情報やイベント情報をぜひ、多賀城にもお送りください！NPOを元気にする講座企画も順次開催していきます。これからの「たがさぼ」にご期待ください！

## ■名取市市民活動支援センター

一昨年の8月に開館して以来、毎週土曜日10時から17時まで、相談員の派遣を行っています。相談員のメンバーは、伊藤、太田、高橋、布田の4名です。相談対応の他に、講座企画を2回(6/7終了、次回11/29)と、交流企画を2回、支援センターを拠点に9/13と2/21に開催します。そして、今年初の試みとして「土曜塾」を開きます。市民活動団体やこれから活動をはじめたい方へ、知って得る情報を相談員が塾長となりお伝えしていきます。そしてさらに「なとさぼ通信(仮称)」をお届けしたいと思います。

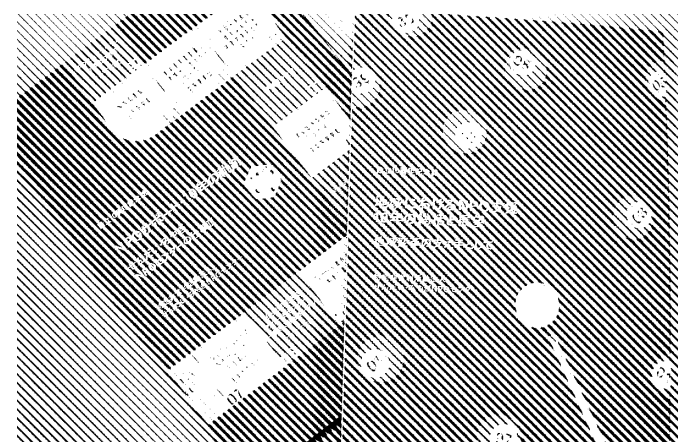
# 10周年記念誌は、双六とビリヤード!

大変長らくお待たせいたしました。当センター10周年記念誌が完成いたしました。

『双六』の表紙の『NPOサポート・10年の軌跡 せんだい・みやぎNPOセンターの仕事』は、当センターのこの10年の仕事をふりかえり、地域のNPOの10年の軌跡とともにまとめたものです。そしてもう一つ『ビリヤード』の表紙の『地域におけるNPO支援 10年の総括と展望 地域変革の支え手として』は、全国の間支援組織の総括と展望の議論のために、8つのNPO支援センターのヒアリング調査や、昨年11月に開催いたしました中間支援を考えるワークショップやパネルディスカッションなどの成果を取りまとめ、関連の資料と総会記念講演を収録いたしました。ご希望の方は、同封いたしましたチラシをご覧ください。

発行にいたるまでには、多くの方々のご参加とご協力をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

[2冊セット期間限定特価: 1,050円(税込み、送料別途)]





●全国の支援センターから

### ゆるゆると原点に戻るひととき、「5丁目カフェ うさぎ」

(特活)ふくおかNPOセンター 理事長 古賀桃子さん

当センターは2002年の設立以来、「草の根から、社会を描く。」を合言葉に、NPOの支援や環境整備に努めています。日々、NPOとして活動をしていると、「NPO」というのがつい当たり前の存在かのように感じられますが、異なる分野・業種の人たちとの出会いを重ねるにつれ、「NPOって、実はまだまだ、マイナーな存在なのかも!？」と思うことが増えてきました。そこで昨夏より、茶菓子とともに語り合い、交流と相互理解を進めながら、NPOの理解も深めていただくという趣旨で、「5丁目カフェ うさぎ」なる企画を月例で実施しています。毎回2時間ほど開催していますが、実にいろんな方が来られては、これといったプログラムのない中、各人の自己紹介や近況報告から始まり、各人のお仕事先の業界の動向・NPOの話題・家族のことなどを語り合っては、ユル〜い時間を過ごしています。偶数月は当センター、奇数月はNPOの現場にお出かけしてお話を聞くカフェを展開しており、時間中の出入りもOKというスタンス。小さな事業ではありますが、元来「草の根」ということにこだわっている私たちにとっては、今もっともミッションを実感できる機会になっています。



●理事リレーコラム

### 「私と市民活動15年」 黒澤 学 (常務理事・仙台市民活動サポートセンター センター長)

都市農村計画研究会に所属していた1993年頃、「竹下ふるさと創生資金(注1)」で全国の市町村が整備した物産館や温泉施設、特産品加工施設などの施設運営の行き詰まりが指摘されていました。その打開策を探る一環として、新しい公共の担い手としてアメリカにおけるNPOの調査研究に関わったのがNPOとの出会いです。その後、仙台NPO研究会(注2)が設立され、2代目にして最後の代表を務めました。仙台NPO研究会の発足当初、私はNPOを日本における講(こう)や結(ゆい)のようなものと矮小化して解釈する不真面目な研究員として存在していました。

95年8月にひよんなことからNPOの訪米調査の機会を得て、約3週間に渡って、5都市を回り、30以上のNPOや財団などのヒアリングを行いました。活動の現場にうかがい、実際に話を見聞きし、目の中にたまっていた鱗がポロポロと落ちていきました。研究対象としてNPOを捉え、書物と耳学問のなかで、矮小化して見ていたものが、目の前で明るく自由闊達に息づいているのです。

この頃から、NPOを矮小化して解釈していた懺悔の気持ちも含めて、一貫して市民活動支援という市民活動に取り組んでいます。「仙台市民活動サポートセンター」の公設民営型の開設が、我が国の市民活動支援や公共施設運営に新しい局面を創り出せたと考えています。公設民営による施設運営を成功させたことが、後に指定管理者制度の創設の源流の1つとなり、民間でも公共サービスの供給者となり得ることを証明してきました。

最近はずいぶん、あの頃、研究対象としていた「竹下創世」の落とし子たちに会いにいけない状況です。あの子どもたちが、元気に運営されているのか、再検証する時間が欲しい今日この頃です。

(注1)ふるさと創生資金:竹下登内閣が行った政策のひとつで、1988年から1989年にかけて、全国の市区町村に対し1億円を交付した。正式名称は「自ら考え自ら行う地域づくり事業」。  
(注2)仙台NPO研究会:1994年4月発足。NPOとまちづくりの関係、NPOとはどういうものなのかなといった議論を重ね、その後、行政にとってのNPOの意義などを自治体に向けて政策提言するといった活動を行っていた。

### 浪越 茂(TSC)

多賀城という素敵な所で、岩手という素敵な所からやってきました。素敵な丘の上の素敵なセンターの中で元気いっぱい笑顔いっぱいで楽しく過ごしています。多賀城へお越しの際は是非!!

### 二瓶徳子(TSC)

縁あってこの仕事にたどり着きました。市民活動1年生の私「世の中にこんな素晴らしいシステムがあったとは!」と研修中に「目から鱗」を何枚落としたことか…。最近では、多賀城“通”になりたいと思っています。どうぞよろしくお祈りします。

### 沼倉久子(TSC)

ある団体さんから、「今までPR下手で悩んでいましたが、この施設があると情報発信しやすくなりそうです。」とおっしゃっていただきました。嬉しい一言でした。史跡の街・多賀城には、まだ埋もれているNPOがたくさんあるかもですね☆

## せんだい・みやぎNPOセンタースタッフ体制紹介

35名のスタッフで運営しています!

6月1日より多賀城市市民活動サポートセンターの管理運営業務もスタートし、スタッフの勤務場所が3ヶ所へと増えました。そこで、今回は現在のスタッフ配置状況と、新スタッフの紹介を行います。

### ■大町事務局

代表理事 加藤哲夫  
 常務理事・事務局長 紅邑晶子  
 [常勤] 遊佐さゆり  
 [非常勤] 小川真美・田内亜紀子・谷口恵子  
 [インターン] 藤井公博

### ■多賀城市市民活動サポートセンター(TSC)

センター長 工藤寛之  
 副センター長 中津涼子  
 [常勤] 伊藤浩子・須藤理江・浪越 茂・桃生和成  
 [非常勤] 二瓶徳子・沼倉久子・門間光憲

### ■仙台市民活動サポートセンター(SSC)

センター長・常務理事 黒澤 学  
 副センター長 伊藤浩子・小松州子  
 [常勤] 内川奈津子・大石俊輔・太田 貴・大西千佳・後藤多喜美・高橋陽佑・豊泉昭子・布田 剛・本田ふみ・本間 藍  
 [非常勤] 渋谷 丹・能藤玲子・橋本明正・三井 克

### ■仙台市シニア活動支援センター

センター長 真壁さおり  
 副センター長 小林正夫  
 [非常勤] 葛西淳子

## 2008年5月に入社した11名の新スタッフより、自己紹介と抱負を語っていただきました。

### 小川真美(大町)

仙台サポセンは利用者として何度も活用しておりましたが、自分が運営側になることなど全く想定の外でした。直接皆さまとお会いする機会は少ないと思いますが、大町事務局より愛をこめてサポートさせていただきます!

### 工藤寛之(TSC)

元せ・みスタッフだった工藤です。ここ数年、某劇団の営業をしていましたが、不思議な縁で再びNPOの世界に戻ってきました。神奈川から仙台に移住して9年目、多賀城の街を新たなふるさとにするつもりで頑張ります!

## 新スタッフ紹介

### 後藤多喜美(SSC)

好きな事・物・人がたくさんありすぎて気がついたら多趣味になっていました。こうなったら「広く深く」を目指したいと思う今日この頃です。どうぞよろしくお祈りします。

### 須藤理江(TSC)

はじめまして。6月1日にオープンした多賀城サポセンで働いています須藤です。わからないことばかりで毎日が勉強の日々です。明るく元気に頑張っていきたいと思いますのでよろしくお祈りします。

### 中津涼子(TSC)

3年ぶりに再びせ・みでお仕事させていただくことになりました。仙台サポセン開館から9年。今度は多賀城サポセンの立ち上げに関わらせていただいています。美術館、ライブハウス、カフェ、広瀬川沿いが出沒スポットです。

### 能藤玲子(SSC)

約3年ぶりに出戻って参りました。本町サポセンとはまた違う雰囲気の中で、多少の戸惑いを感じながら仕事をさせて頂いています。食べたり飲んだり大好きで、なかなか体重が減りません。どうぞよろしくお祈りいたします。

### 橋本明正(SSC)

異人館は知らないけれど故郷は神戸。昨年会社生活を卒業、今は初心に戻り61歳の手習い中。願いは、仕事を通じて出会いと絆を作る事。楽しみは、自転車で一寸遠征して杜の都を歩き廻る事。4月はリスに2回出会いました。宜しくお願いします。

### 門間光憲(TSC)

お気に入りの多賀城で仕事ができるなんて幸せです。かつ素晴らしいメンバーと一緒にその幸せも10倍。こんなに幸せで良いのでしょうか?